

これまでに行われたアンケート調査概要

平成 15 年度 ウミガメ産卵地の保護と利用のあり方検討会

実施主体：環境省

目的：適正なウミガメ観察のあり方に関する方針を検討するための基礎資料を得る。

対象：調査ボランティア・観光客・観察会実施者・永田区住民

方法：10月中旬から11月上旬にかけてアンケート用紙を郵送にて配布し、回答者に郵送にて回答してもらった。

結果：1404件配布中、664件から回答を得た（回収率47.3%）。

うち、観光客は977件配布中、414件から回答を得た（回収率42.4%）。

協力金に対する考え・観察会の実施目的・満足度とその理由などについて回答があり、現在でも参考になる情報が多い。

→Q. 観察会で重視すべきことは？（回答はひとつ）

無秩序な人の立ち入りを防ぐことによりウミガメ保護につなげる (63.5%)

参加者の環境教育につなげる (30.4%)

地域の振興につなげる (1.4%)

その他 (4.7%)

Q. 観察会において人数制限は必要か？

必要と思う (68.6%)

必要と思わない (9.9%)

わからない (21.5%)

Q. 観察会において改善すべき点はあるか？

ある (55.3%)

{ 観察会の趣旨（ウミガメ保護）を伝える
 人数制限
 観察ルールの周知・徹底 など

Q. 協力金は必要か？

必要と思う (89.4%)

必要と思わない (3.1%)

わからない (9.5%)

Q. 協力金の望ましい使用目的は？（複数回答可）

ウミガメの保護 (97.3%)

ウミガメの調査 (64.1%)

人件費 (57.8%)

地元の観光振興 (4.1%)

地元の福利厚生 (2.7%)

平成 25 年度 ウミガメ観察会に参加された方へのアンケート調査

実施主体：学習院大学文学部心理学科

目的：心理学研究

対象：観光客

方法：9日間（7月 17-21 日、7月 28-31 日）にわたり、観察会参加者に返送用封筒が入ったアンケート調査票を手渡し、後日郵送してもらった。

結果：632 件配布中、275 件から回収（回収率 43.5%）
心理学研究の調査であるため、観察会の評価が直接明らかになるものではないが、参加動機などの情報は参考になる。

どの調査も、回答者に後日郵送してもらう方法（実施者負担）で調査を行っている。近年観察会に訪れる人は約 5000 人にも及び（平成 28 年度）、郵送代金だけでも単純計算で約 40 万円必要。